

第二次世界大戦勃発 70 年、ロシア、ドイツ、ポーランド各国首脳による演説

著者	岡野詩子 Okano, Utako
所属	岡山大学大学院社会文化科学研究科博士課程後期
アイテムタイプ	翻訳 (Forum Poland Online Database: FPOD)
URL	http://www.forumpoland.org/okano09.pdf
発行年月日	2009年
Copyright by	Okano, Utako
初出	—

70年前の1939年9月1日にポーランドのグダンスク郊外のヴェステルプラッテへのドイツ軍の侵攻で第二次世界大戦が勃発した。そして、2009年9月1日に大戦開戦70年の記念式典が開催された。戦争勃発の直接の当事国である、ドイツ、ロシア、ポーランドをはじめ、EU加盟国やアメリカなど約20カ国の代表者が式典に出席した。

ヨーロッパ諸国とロシアとの間では、大戦勃発の見解が異なっている。ヨーロッパ諸国は、1939年8月23日に締結された独ソ不可侵条約の中のポーランド分割の秘密議定書に基づき、1939年9月1日にドイツが西部ポーランドに侵攻し、その17日後にソ連軍がポーランド東部から軍を進めていったことで大戦が始まったとしている。つまり、ドイツとソ連における分割の合意こそが大戦の引き金を引いたとの解釈である。一方、ロシアは1938年9月のミュンヘン会談でイギリスとフランスのナチス・ドイツに対して宥和政策をとったことが、1年後のドイツとソ連との協定、つまり独ソ不可侵条約を締結することになったと主張している。ドイツの圧力を軽減させるために、ソ連もドイツに対して融和的な姿勢を取らざるを得なかったというのだ。ミュンヘン会談こそが大戦の起点であるというのがロシアの主張だ¹。

この式典の背景として、8月20日に、ロシア国営テレビは「秘密議定書の秘密」というドキュメンタリー番組を放送した。これは独ソ不可侵条約締結70年に合わせたものである。その中で、ポーランドは1934年にドイツと軍事協力などの項目を含む条約を締結し、これはソ連に対抗したものだと言われ、さらに「ドイツと最初に手を組んだのはポーランドである」と指摘している。それに対し、ポーランド側は、戦争勃発の原因がポーランドにあるとの印象を与えていると批判した。ロシア外務省は、テレビ番組の内容にまで干渉することはできないと述べた²。このようなロシア国内の背景から、プーチンは開戦70年の式典に臨んだ。

ロシアのプーチン首相は、式典の前日の8月31日付けでポーランド紙『ガゼタ・ビボルチャ』(*Gazeta Wyborcza*)へ寄稿している。独ソ不可侵条約については、ドイツとは躊躇なく協定を結んだと、さらに「第一次世界大戦後のベルサイユ条約、ミュンヘン協定におけるイギリス、フランスの宥和政策、この協定によってポーランドとハンガリーもチェコスロバキアの領土の割譲を要求したことなど、ドイツとソ連

¹ <http://mainichi.jp/select/world/globaleye/news/20090905ddm004070104000c.html>

² <http://mainichi.jp/select/today/archive/news/2009/08/29/20090830k0000m030072000c.html?inb=ra>

の協力だけが戦争を引き起こした原因でないと主張している。そして、ポーランド人将校ら約 22000 人がソ連軍によって虐殺された「カティンの森事件」に関しては、犠牲者に対し遺憾の念を表しているが、同時に 1920 年のポーランドーソビエト戦争によって捕虜になったソ連軍に対しても、カティン事件同様、互いの民族に対する悲劇を共に受け止める必要があるも述べている³。

さらに、プーチン首相とポーランド・トゥスク首相は式典を前に会談し、その後の記者会見で両国間の歴史認識をめぐる対立において、検証すべき歴史問題があると指摘した⁴。そして、「カティンの森事件」の資料公開を、トゥスク首相が要求したのに対し、プーチン首相は前向きな姿勢を示した。

ドイツのメルケル首相は、演説の中でドイツのポーランド侵攻はヨーロッパや世界に多大な危害を加えたと謝罪し、ドイツの首相としてこの式典に出席できたことは、我々のパートナーシップ、協力、友好の証だと述べている。一方、1200 万人以上のドイツ人が戦後のポーランドとの国境の取り決めによって居住地から追放されたのは不当であり、この点も認識されるべきだとの見解も表した。

ポーランドとロシアとの間では、大戦における歴史認識をめぐる対立が現在もまだ続き、両国の歴史の共有における和解へはまだまだ時間がかかりそうである。

以下、ロシア首相プーチン、ドイツ首相メルケル、ポーランド大統領カチンスキ、同首相トゥスクの各演説の邦訳を紹介する。

³ 『ガゼタ・ビボルチャ』 (*Gazeta Wyborcza*)、8 月 31 日付、List Putina do Polaków – pełna wersja.

⁴ <http://www.tokyo-np.co.jp/s/article/2009090101001052.html>

戦争へと導いたナチスとの協定

ロシア首相：ウラジミール・プーチン⁵

親愛なるポーランド共和国大統領閣下、首相閣下、ご来席の皆様、友人の皆様。

我々は、各国の代表として人類史上最も残酷で恐ろしい戦争が始まった地、グダンスクに集まりました。そして、将校、警察官、パルチザン、抵抗運動に参加した人々、女性、子ども、年配者など 1000 万人もの犠牲者に対して、勝利の英雄としての敬意を表すためにここに集まりました。空襲や懲罰部隊による犠牲者もいます。様々な信仰、国籍、そして政治に対して異なる見解を持った人々で、この戦争で亡くなった人々です。

ファシズムとの戦いと勝利は、背を向けることのできない損失という大きな犠牲を払いました。約 53000 人の赤軍兵士と将校が、今このグダンスクの地に眠っています。このポーランドの地に、ここで命を落とした 60 万人もの赤軍兵士、つまり我が国民が眠っています。第二次世界大戦での約 5500 万人の犠牲者のうち、およそ半分がソ連国民なのです！このことを考えてみて下さい。この道徳的な見解から、我々、つまり各国の代表は、犠牲者の方々に敬意をしめさなければなりません。そして、この戦争で起きた悲劇を記憶に留めておかなければなりません。

第二次世界大戦勃発 70 年を迎えた今日、何が戦争勃発へと導いたのかを考える必要があります。卑怯さ、陰謀、戦闘の表舞台以外での戦い、その他、それらに対抗するために犠牲まで払った、戦争を引き起こした原因とは何なのでしょう。第二次世界大戦は、歴史の流れの中で始まったものではありません。そして、このことについて今日話されていることに同意します。この戦争は、元々、第一次世界大戦後にドイツを懲らしめるために取り決められたベルサイユ条約から始まっています。まさに、1930 年代後半でナチスによってこれが利用されたのです。この当時、集団安全保障を作り出せなかったという事実に注意を向けなければなりません。第二次世界大戦に先立った悲劇的な出来事を分析しつつ、その結果をもう一度考えるべきです。したがって、ステレオタイプな考え、そして固定された考えを捨て、歴史の歪曲や歴史の事実の忘却を取り除く必要があります。過激派との協力、すなわち第二次世界大戦でナチスとの協力が人々を悲劇へと導いたことを忘れてはなりません。協力ではありません、つまり戦争へと導いたつまり、自らの問題に他人を利用して解決するという陰謀なのです。1934 年から 1939 年の間の協定への理解における全ての試みは、道徳的な見解から受け入れがたく、結果として何の意味もなく悲劇を引き起こしたのです。まさにこの一歩が悲劇を導き、第二次世界大戦の勃発を招いたのです。これらの過ちを忘れてはならず、認めなければなりません。我々の国はそれをしてきました。ソ連人民代議

⁵ <http://www.rp.pl/artykul/357106.html>

員大会は、まさに独ソ不可侵条約は道徳的でないことを認めてきました。そして、他の国々にも自らの過ちを政治のリーダーのレベルだけではなく、政治的な決断をするレベルとして認知してもらいたいです。

もちろん、犠牲者の方々についても忘れてはなりません。この認識なしでは、安全な世界を築き上げることはできないでしょう。我々は、冷戦という世界の分裂、そしてその結果を取り除くことはできません。我が国は過去の過ちを認め、実際に新しい原理に基づいた方法で新しい世界を築いています。まさにこの我が国の体制のおかげでベルリンの壁を取り除くことができ、実際に、そして実質上、分裂なしにヨーロッパを立て直したと言えます。我々は、ゼノフォビア、人種に対する嫌悪、信頼の欠如と闘って克服しなければなりません。現代文明における政治のあり方は、共通の道徳的な原理を持つべきです。この方法における唯一の進歩こそが、第二次世界大戦の結末から克服し、世界平和を構築するのだと確信しています。歴史的な清算ではなく、協力そしてパートナーシップを目的としたロシアとドイツの関係こそが健全な相互理解の一例だと言えます。そして、ポーランドとロシアが歴史やその清算における過去の積み重なりを乗り越え、よい関係を築いていけることを願います。

最後に、今日の式典の参加者の方々に申し上げます。ヴェステルプラッテやスターリングラードで戦った人の友人がいます。イタリアやノルマンディーで戦った人たちもいます。さらに、ワルシャワ、プラハ、ベルリンでの戦闘に参加した人たちもいます。あなた方の英雄は我々の心に留まり、平和を求めて闘い、勝利を得た証なのです。

ご清聴ありがとうございました。

我々に手を差し伸べてくれました。

ドイツ首相：アンゲラ・メルケル⁶

大統領閣下、首相閣下、親愛なる友人の皆様、司教殿、皆様

70 年前、ドイツがポーランドを攻撃したというヨーロッパ史の中でも最も恐ろしい一幕がありました。その後一年もの間、破壊や人間の権利を認めないような屈辱が続きました。これまで歴史上ポーランドの他にドイツの支配下に苦しんだ国はありません。特に、この戦争でポーランドという国は破壊され、都市や農村部は焼き尽くされ、1944 年のワルシャワ蜂起ではほとんどの建物は残らず、ポーランド人に対する損害をほとんど避けることはできませんでした。

ここ、ヴェステルプラッテでは、私、ドイツの首相としてドイツ支配下の残虐な行為に耐えたポーランド人の運命を振り返ります。そして、ヨーロッパのユダヤ人殺戮を振り返ります。ドイツの絶滅収容所でおぞましい死を遂げた 600 万人もののユダヤ人についても呼び起こします。100 万の人々がドイツの支配に抵抗して殺害されました。ドイツによって悪夢を引き起こした中で病気、貧困、飢餓によって、人々が病気になったり、亡くなったりという結果を回顧します。人々がこの残虐行為に苦しんだことに対して表現する言葉もありません。犠牲者の方々に対して遺憾の意を表します。我々は、同じ行為を繰り返さないと分かっています。

傷跡は絶えず明白ですが、我々の課題は何が起きたかという責任を受け入れることです。まさにこの精神で、ヨーロッパは大陸における力と脅威から大陸の安全と平和に向けて変わってきました。これらの出来事は、実は奇跡と隣り合わせなのです。

我々ドイツ人は、西ドイツと東ドイツが協力そして和解に向けて進んでいったことを今まで一度も忘れませんでした。今も忘れてはいません。あなた方が我々に手を差し出し、70 年前から歴史の暗く大きな穴だけではなく、20 年前の喜ばしい日、ベルリンの壁崩壊そしてドイツの統一、ヨーロッパの統一についても振り返っているのは本当に奇跡だと言えます。

自由と団結に向けてのヨーロッパの意向は、鉄のカーテン崩壊後に現実化しました。同様に、ポーランドをはじめ他の国々でも、人々は自由を目指してきました。我々はポーランド人、ハンガリー人、チェコ人、スロバキア人、そしてミハイル・ゴルバチョフ氏のことを忘れてはなりません。我々は、ヨハネ・パウロ 2 世のように、許しに向けた真実や覚悟を示さなければなりません。そして、ポーランドや他の東ヨーロッパの国々が北大西洋条約機構や欧州連合に加入したことは、正しく、しかるべき決断をしたと言えます。

⁶ <http://www.rp.pl/arttykul/357107.html>

我々は 1939 年より長い道のりを歩んできました。今日、我々の国と同じ平原にある国々との間では、とても良い関係を築いています。統一を可能にした力こそが、我々の歴史を認識したことに至りました。

我々のカトリック中央協議会の言葉を引用します。「私たちは共に歩みたい未来を見なければなりません。しかし、私たちの歴史のあらゆる側面を忘れてはならず、その意味することを軽視してはいけません。」

同様に、第二次世界大戦で家を失ったドイツ人についても申し上げます。カトリック中央協議会が主張したことについて（第二次世界大戦後のポーランドとドイツの国境問題）理解はしており認めてはいますが、このことから再びドイツの戦争責任の話に戻ることは避けたく思います。この思いで、かつて悲劇を経験したグダンスクへ、今日では修復され美しくなったこの街へ、70 年経った今やっとたどり着きました。

大統領閣下、首相閣下、私をドイツの首相としてこの式典に招待して頂き、とても感謝しています。これは我々のパートナーシップ、協力、友好の証だと思います。私は本当に感謝しています。

平和の基盤となる歴史

ポーランド首相：ドナルド・トゥスク⁷

なぜここに、そして今、今日、9月1日にグダンスクに、他の場所ではなく、他の日ではなく、ヨーロッパの代表者たちが集まったのでしょうか。

なぜ、これまでポーランドの代表者たちが9月1日にグダンスクに集まっていたのでしょうか。なぜ、ここグダンスクに9月1日に、戦闘員や若者たちがここにいたのでしょうか。なぜなら、9月1日にグダンスクでは、人類史上最も大きな悲劇が始まったからです。この悲劇、その足跡やしるし、全体的な悲劇の前触れが、この目に見える範囲全てにあります。

ここに、我々のそばで、ナチスのポーランド侵攻による最初の犠牲者が出ました。まさにこの場所です。少し先にシュトゥットホフイエ収容所を分け隔てた鉄条網が見えます。人間同士を敵にしたこの戦争は、たくさんのこのような強制収容所を作り出しました。この収容所では、他のとも同様に軽蔑から、意味もなくポーランド人、ロシア人、ユダヤ人、そしてドイツ人が殺されました。

さらにもう少し先を、今度は反対の方向を見ると、カシュブイ地方の小村落のピアシニツァからさほど遠くないところに森があります。ここには、戦争が始まって1週間目には多くの人々がいました。ポーランドの教師たち、エンジニアたち、そして軍人やエリートたち、彼らは罪もなく射殺されたのです。

ここ、ポモージェ地方のたくさんの場所では、茂った森では恐ろしい秘密が隠されています。この戦争は悲劇的な側面を持っており、なぜならこのピアシニツァでもナチス・ドイツは障害を持つ人々、精神病を持つ人々、多くの同胞たちを森で射殺したのです。戦争が始まって最初のポモージェでの一週間では、小村落や街から本当に多くのポーランド人が家から追い出されたのです。

同じく少し遠くを、私の実家の方を見ると、墓地があります。ソ連軍の墓地です。本当に多くの若者たちがここに眠っています。1945年の早春に彼らは人生を終えました。彼らは我々に自由をもたらそうと命を捧げましたが、解放は与えてくれませんでした。我々は彼らに敬意を表し、この墓地を心に留めておきたいと思います。

なぜ、この戦争の残虐行為の例としてこれらのグダンスクやポモージェ地方を挙げるのでしょうか。なぜなら、これらの残虐行為の記憶、人々や全ての民族の壊滅に対する記憶は、今後再び起こりえる戦争に対して、最も大事で最も有効的な盾となりうるということを、私たちは深く確認しているからです。1939年のグダンスクでの出来事や、この時の世界での恐ろしい出来事について忘れず、戦争の記憶に基づく責任感を持てば悪夢はもう起きないと、誰もが分かっているのです。我々が共に責任を感じることで、このような悲劇はもう起こらないでしょう。

⁷ <http://www.rp.pl/artykul/357109.html>

グダンスクは希望の地でもあります。たくさんの傑出したポーランド人の中で、ここグダンスクで希望や、連帯の勝利や、新しいヨーロッパを強固にした多くの価値あるものも直視してきたレフ・ワレサがいます。この地で連帯が発足し、戦争や暗い状況を跳ね返すようなヨーロッパが生み出されました。戦争の記憶があればこそ、戦争放棄の対する考えが現れ、もうこのような戦争は起こらないでしょう。これは最も基本的な我々の取組みなのです。

9月1日のグダンスクでは、みなさん、モスクワからローマへ、ロンドン、パリからワルシャワへ、ストックホルムからバルカンへ、バルカン諸国からアメリカ合衆国へ。例外なしで、あなたたちこの取組みが我々を悲劇から守るということをここで言わなければなりません。自由というものはいつも捕虜よりも良くあるべきだ、独裁よりも民主主義、偽りよりも真実、憎しみよりも愛、軽蔑よりも敬意、不信よりも信頼、そして最後にエゴイズムよりも団結の方が良くあるべきなのです。私には、ここに誰が座っていたのか、あなたたちの周りに誰がいたのか、同胞のみなさん、この考えを共有しない人はいないでしょう。我々は、ここにヨーロッパを築き上げてきました。この取組みに基づいてヨーロッパの統一だけではなく、ロシア、ウクライナ、ベラルーシと我々のいる全ての大陸に安全体制を築き上げなければなりません。

我々は、今まで生き残ってきた民族として、悲惨な歴史にもかかわらず、悲劇にもかかわらず、平和と大きな信頼という感覚を信じていくという証を見せるためにここにいます。他の目的では、ここに集まった意味がありません。歴史の解釈は様々であること、人々それぞれ自分の記憶があること、しかし事実というものは一つしかないということを私は申し上げたいのです。歴史を他の誰かに向けるのではなく、歴史は平和の基盤となり、これらの出来事における歴史は平和への基盤となるという事実を忘れないようにしなければなりません。

今日は、ユダヤ人虐殺についても触れました。100万人ものの戦死した方や殺害された方に対して敬意を表しました。90パーセントが破壊されたグダンスク、キエフ、レニングラード、ドレスデンについても触れました。我々ポーランド人は特にワルシャワを忘れてはなりません。

同じくヒトラーの言葉も忘れてはいけません。それは戦争から最も大きく、最も悲惨な最初のシボルの言葉です。独ソ不可侵条約を結ぶ前日、8月22日にアドルフ・ヒトラーは將軍たちとの会合で、戦争の本質にあたることを、悪夢の本質について言ったのです。戦勝者には何の責任もなく偽りを言うこともでき、弱者への同情はゼロ、力を持つ者だけが正しいとも言ったのです。

新しいヨーロッパの秩序の中で、ヒトラーの考えは許されません。我々はヨーロッパを築き上げてきました。そして力が正当化されない、正当化されるべきものが正しくあるべきという考えで世界の秩序を築いていかなければなりません。勝利者は真実に反しているところに利益はあるとは述べません。皆、例外なしに真実を探し求めているのです。もし我々が共に安全体制を築いていきたいのなら、弱さにおける支配力の強さへの誘惑を断ち切らなければなりません。我々は、ヨーロッパの統一させた原理を信

じなければなりません。弱者に対しては軽蔑をせず、ただ弱者であると認識しなければなりません。

最後に、今さっき聞こえましたヴェステルプラッテでの戦争の不必要性を示した一斉射撃のように、我々も平和へ向けて進めていかなければ、ポーランド人にとって、そしてヨーロッパの人々にとって今日の大事な集まりに何の意味もありません。我々がここにいるのは、複雑な歴史に背いて、悪い誘惑に背いて、我々の間で信頼を築き上げるためなのです。そして、10年前からこのヴェステルプラッテで永久に留められている「戦争はもういない」という言葉を繰り返すために、我々はここにいるのです。ご清聴ありがとうございました。

いつも困難が伴うが、真実は一つである。

ポーランド大統領：レフ・カチンスキ⁸

ご列席の首相の皆様、大統領閣下、国会議長閣下、皆様

今日で最も悲惨な戦争、第二次世界大戦が勃発して 70 年を迎えました。我々はヴェステルプラッテにいます。ヴェステルプラッテは強豪な敵に対して勇敢に立ち向かったというシンボリックな所です。ここから 2、300 キロ離れたヴィエリツという街では、最初の空襲があり、1000 人もの人が亡くなりました。これが 2 つ目のシンボルであり、この戦争の全体のシンボルとも言えます。

すでに 2 世代近く経っていますが、この戦争は考慮を求め続けています。この戦争の原因は何であったのでしょうか。全体主義、国家主義、そして排外的愛国主義が原因であったのは疑いありません。第一次世界大戦後のベルサイユ体制が、我々のいる大陸、そして世界の平和の構築への試みであったのは間違いありません。ベルサイユ条約は我々の国の独立を承認しましたが、ポーランドだけではなく、フィンランド、エストニア、ラトビア、リトアニア、ハンガリー、チェコスロバキア、そして最後にセルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国、後のユーゴスラビア、スロベニア、クロアチアも独立へと導いたことを言う必要があります。この条約は民族の独立の原理を認め、少数民族に対する一義的な権利も認めていました。それほど複雑な原因はありませんでしたが、先ほど申し上げたように、全体主義体制の中でそれらうちの本質が姿を現し、その転機として第三帝国が成立したのです。第三帝国、過激なイデオロギー、報復ヘイデオロギーを掲げ、そして自らのナチスのイデオロギーで、ヨーロッパの文明が生み出した全ての財産を否定したのです。

1933 年から 1938 年の間に、ドイツはこの全体主義を通して協定を結ぶために努力してきました。フランスやイギリスという西側の大国と協定締結への交渉に骨を折りました。1933 年の秋には、ポーランドは戦争勃発防止を働きかけましたが、何も結果は得られませんでした。このような条件下でドイツと不戦条約を結びました。これより早くに、ドイツはソ連とも同じく不戦条約を結びました。その当時では、この条約と 6 年後に結ばれた独ソ不可侵条約とを比較するとは思ってもみませんでした。政治の宥和政策は最初にアンシュルスへ、後にミュンヘンで行われました。ミュンヘン協定の意味を考えなければなりません。ウィンストン・チャーチルが、「名誉と恥とでは恥を選んだのに、戦争を避けることはできなかった」と然るべき事を発言していました。ここに我々の国がなすべき役割について聞きたいと思います。我々はミュンヘンにいませんでした。ミュンヘンにいませんでしたが、その影響としてポーランドもチェコスロバキアの領土を侵すことになったのです。領土の侵害というのは当時、そして今日でも好

⁸ <http://www.rp.pl/artykul/357111.html>

ましくないことなのです。

問題は全体主義だけではありません。問題は、あらゆる帝国主義的な、そしてネオ帝国主義的な傾向なのです。我々は、昨年これを確信しています。ポーランド軍もチェコスロバキア分割に参加したことで、チェコスロバキアの領土が侵されました。これは間違いだけではなく、罪なのです。ポーランドではこの罪を認め、言い訳もしません。もし言い訳が見つかったとしても、その言い訳を言うことはありません。ミュンヘンから、現在につながることを学び、帝国主義に屈してはなりません。帝国主義にもネオ帝国主義的な傾向にも屈してはなりません。いつも、ミュンヘン協定のような迅速で悲劇的な結果を得るとは限りません。しかし、このような結果は時として起こるのです。現代ヨーロッパは、そして世界は、これを学習しなければなりません。ミュンヘン協定の一年後に戦争は勃発し、それに先立つものとして、1939年8月23日に独ソ不可侵条約が結ばれました。これはただの不可侵条約ではなく、ヨーロッパの多くの地域を分割するという協定でもあったのです。

我々の国はその当時どのような状況であったのでしょうか。私は今朝から申し上げていることをもう一度繰り返して申し上げたいと思います。ポーランドには、反コミンテルンへの参加の申し入れがありました。提案さえありました。ポーランドはそれを拒否し、参加しませんでした。その同盟は機能され続けました。1939年の戦争、1939年9月、10月の経過はよく知られており、今朝これについて申し上げたと思います我々の国は戦争に負けて終わりました。なぜなら、そのように終わらなければならなかったからです。ポーランドは支配に置かれただけではなく、例外的な悲劇の日々を過ごしてきました。私の母国では、550万から580万人ものポーランド人やユダヤ人の命が失われました。彼らはこの戦争の犠牲者であり、そして世界全体では5000万人の人々が戦争の犠牲者になりました。ホロコーストだけではなく、ソ連とドイツにより勃発した戦争による他の犯罪にもよるものです。

カティンに対しても考慮がなされるべきです。この現在の時点で知られている事実の点からではなく、その原因の解明を求めているのです。なぜ、何万人ものポーランド人将校や警官、ポーランド軍、国境警備団が敵とされなければならなかったのでしょうか。それは復讐だったのです。1920年にポーランドが攻撃に対して撃退したことからの復讐に違いありません。それは共産主義ということも申し上げることができます。いいえ、ここでは共産主義ではありません、排外的愛国主義なのです。それは、共産主義の制度の中の排外的愛国主義だったのです。リッベントロップとモロトフの協定は、賢く締結されたものではありません。相手を出し抜くためだったのです。スターリンは、ドイツはフランスやイギリスとの戦闘に疲れ果て、負けるのは時間の問題だろうと思っていました。ヒトラーは、西側を制圧し、それから東側へと勢力を広げようと考えていたに違いありません。両国とも間違ったことを思い込んでいたのです。ナチス・ドイツが打ち負かされた悲惨な戦争が勃発しました。今日、もう申し上げていることですが、この戦争で何百万人もの赤軍兵士をはじめ、ロシア人、ウクライナ人、ベラルーシ人、グルジア人、アゼルバイジャン人、そして他の多くの民族が亡くなりました。彼らに敬意を表します。

そして彼らは勇敢さを示してくれました。ナチス体制は制圧されましたが、ポーランドは独立を完全に取り戻すことはできませんでした。

ヨーロッパには鉄のカーテンが下りました。我々の国の方ではない、カーテンの西側では、過去を見直す時代が始まりました。この考慮の効果的なものとして、防衛条約、その後すでに 60 年の間、安定、自由、全体において少なくとも民主主義の機関として存在している北大西洋条約機構が挙げられます。これは成功した試みの一つだと言えます。しかし、この同盟は義務であることを忘れてはなりません。今日、この同盟にはポーランド、ドイツが加盟しており、両国は各自の利益を互いに尊重し合う義務があります。この同盟は必要であり、今後も存在していくでしょう。しかし、今日のヨーロッパは防衛条約の概念だけを念頭に置いているわけではありませんでした。初めから全ての考えに基づき機構を築き、今ではヨーロッパ連合と呼ばれています。人類史上、より関心のある試みであることには間違いありません。同様に、少なくともここまで大きな成功を成し遂げたと言えます。

この共同体の範囲内で、確実に言えることは力のバランスの原理が少なくとも協力において規則の代わりを務めるものです。これを達成させるための条件は何でしょうか。最初の条件は、少なくとも、共同体における価値、そして自由、民主主義、社会的多元性です。2 番目の条件は、帝国主義への希望を諦めること、少なくとも影響を及ぼす範囲以上の願望を諦めることです。これなしでヨーロッパの統一はあり得ませんでした。そのおかげで、我々は今 27 カ国の統一が実現したのです。将来、もっとたくさんの国が加盟し、そうなるに全く新しい性質を持つことになると思います。この性質は体制の価値を受け入れるという一つの条件の下で、誰に対してもオープンであるべきです。大国という概念を持つ国にはこの同盟の中に居場所はなく、平等という考えを持つ国だけが加入することができるのです。ヨーロッパが協力し合うことは、二つの国が寄りかかりあうための足場を求めることではありません。広く、様々な面からの協力が必要なのです。そして、国と国民の間だけではなく、国と国の間においても民主主義を求める必要があります。もしそのようにできたら、1939 年から 1945 年の間に起きた理解できない悲劇や犯罪を最後まで生み出すことはなかったでしょう。

この実現のための道は短くはありません。私はこの場で、価値そして真実を抛り所にして、進むべき道が安定するよう願っていることを表明します。真実に関しては、それは度々苦痛を伴うものですが、勝利者そして敗者もまたそれを明らかにしていかなければなりません。私たち、キリスト教徒にとっては、真実はいつも一つでなければならず、勝者も敗者も同じように明らかにしていかなければなりません。

我々、ポーランド人は真実を知る、我々の民族に起きた悲劇の内容を知る権利があります。今まで誰も追い求めることを諦めることはありませんでした。全ヨーロッパは複数主義、自由そして民主主義を、困難であっても真実に向けて進んでいると深く信じています。なぜなら、我々は、先ほども申し上げたように、自らの過ちを認めることができるのです。過ちを認める必要があります、3 万人もの虐殺の決定とチ

フス等の伝染病の被害者を同じ話として片付けることはできないのです。これは真実の方向へ到達する権利のための道ではありません。私の国だけに限らず、ヨーロッパ全体にとってこの真実へ到達する権利への道が必要なのです。

ご清聴ありがとうございました。